

退職のご挨拶

このたび一身上の都合によりトータルハードマネジメントサービスを退職いたしました。在職中は多くの方々にひとかたならずお世話になり、本当にありがとうございました。

私がトータルハードマネジメントサービスの名前を初めて聞いたのは、学生時代のインド旅行中のバスの中でした。その後佐竹先生の大学での講演などを聞く機会があり、縁を感じて実習をさせていただきました。そこで出会ったトータルの会社の人たちはとても忙しいようですが、皆が並々ならぬ情熱を仕事に注いでおり、衝撃を受けました。農家さんのことを第一に考え、診療だけではなく、病気を予防するためにはどうしたらいいのかということにも考えを巡らせており、まるでスーパーマンのように感じました。自分もトータルの人たちのような仕事がしたいと強く思い、就職することを決めました。

働き始めてからは、嵐のように毎日が過ぎていきました。少しでも先輩たちに近づけるよう、早く農家さんの信頼を得られるよう必死でした。本当にたくさんのことを教えられ、支えられてきたなど実感しています。それは牛や酪農のことだけにとどまらず、人としての考え方や生き方、そうしたことも学ばせていただきました。トータルと農家さんとの関係はとても濃く、仕事だけの関係ではなく、時に友人や家族のように接していただきました。皆様と話をすることがとても楽しく、毎日が新鮮で、発見でした。私はトータルで働くようになって「酪農」という生き方を選んだ農家さんにどんどん惹かれていきました。日々牛と土、人に向き合っているひたむきな姿は本当に尊敬しています。

退職後はアフリカのウガンダという国で、酪農に関係する仕事に半年間従事してきました。小さいころから発展途上国の貧困削減や農村開発にいつかかかわりたいと思っていました。プロジェクトの話ももらい、悩んだ末、退職してアフリカに行くことを決めました。皆様に育てていただいた私は、まだどれほどの御恩も返せていないことは自覚しています。このような形で道東を去ることになり、誠に申し訳ありません。ただ、日本であってもアフリカであっても、トータルの卒業生として農家さんのために仕事をする。国は違えど、私の目指すべきその本質は変わらないと考えています。そしてそれは、必ずつながっていると信じています。アフリカで農家さんのために仕事をする中で、皆様ともやはりどこかでつながっていて、学ばせていただいた多くのことを最大限に活かして、それ以上のものを現地の農家さんと生み出すことが私の目標であり、皆様への恩返しだと感じています。

いままで本当にお世話になりました。最後に退職のご挨拶がこうして紙面上になっていましたこと、お詫び申し上げます。トータルで働いた数年間は私にとってかけがえのない時間であり、出会った人々は家族であると同時に、師であり、目標です。今後どこにいても、そのことを深く心に刻み付け、精一杯生きていきます。また皆様にお会いした際に胸を張れるよう、しっかりやっています。どうもありがとうございました。

2017年10月10日 茅野 大志